

【解説文】

10月17日（土）から、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館（愛称「空宙博（そらはく）」）において、企画展「日欧宇宙展～遠くに行きたければ、一緒に行こう～」を開催します。

今回の企画展は、令和6年に空宙博職員が欧州を訪問し、2年かけて開催準備を進めてきましたが、日本と欧州が協力して取り組むロケット開発や地球観測、プラネタリーディフェンス（地球防衛）、惑星探査など、幅広い分野の国際共同宇宙ミッションを紹介します。

企画展の目玉を2つ紹介します。まず1つ目は、JAXAと欧州宇宙機関（ESA（イサ））による国際水星探査計画「BepiColombo（ベピコロンボ）」です。平成30年10月に打ち上げられた探査機が8年を経て、来月21日に水星周回軌道に投入される予定で、今回は、長さ6mを超える探査機の実物大模型や、JAXAが開発した水星磁気圏探査機「みお」の熱試験モデルの実物をご覧ください。

2つ目は、JAXAが主導する火星衛星探査計画「MMX（エムエムエックス）」です。10月20日に、H3ロケットにより種子島から探査機を打ち上げる予定で、今回は、探査機に搭載されるフランスの「CNES（クネス）」とドイツの「DLR（ディーエルアール）」が共同開発した小型ローバ（探査車）の車輪の実物をご覧ください。

他にも、宇宙開発の壮大さを体感できる、迫力ある実機や模型の展示に加え、高品質な映像表現を効果的に取り入れ、専門的な内容も分かりやすく理解できるよう工夫した展示構成となっています。

そして、会期中は、プロジェクトの第一線で活躍するJAXA研究者の講演会や子ども向け工作教室など、多彩なイベントも開催します。また、今回の企画展開催を記念し、初日には、オープニングセレモニーも開催します。

この機会にぜひ空宙博へお越しいただき、サブタイトル「遠くに行きたければ、一緒に行こう」の意味に込められた国際協力が生み出す宇宙開発の技術と挑戦の感動をご体感ください。